

キラリ☆ 中野のチカラ

うばな ひらい 卵花 飛来 さん 【中野エスペランサ】



FC中野エスペランサから
松本山雅FCユース(U18)へ

FC中野エスペランサU15で攻撃の中心選手として活躍し、3年連続で県選抜として選出されるなど、県内でもトップクラスの実力を持つ卵花飛来選手が、J2リーグ松本山雅FCユース(U18)への入団を決めました。今回は、4月から松本市内の選手寮に暮らしながらトップチームプロ契約を目指す卵花さんにお話を聞きました。

○サッカーを始めたきっかけ

小学校4年生の時に、仲の良い友達に誘われてクラブに入り、サッカーを始めたのがきっかけです。休み時間など、友達とサッカーで遊ぶことはありましたが、自分からすすんでやろうとは思っていなかったの
で、友達がいなかったらサッカーをしていなかったかもしれません。

○FC中野エスペランサU15



FC中野エスペランサU15は、競技中だけでなく、競技を離れた時間も重要視しており、勉強など「オフザピッチ」を大切にしながら日々練習を行っています。練習内容は基礎

トレーニングを重点的に行い、チーム全体でパスを通して得点を取ることとを目標にしています。チームメイトは全員が仲良しで、先輩後輩の上下関係がなく、試合でも全員が同じ目線で試合のことを考えることができるとも良いチームです。

○目標としている選手

ディフェンスでは、FCバルセロナのジュゼップ・ピケ選手が目標です。視野が広く、くさびのパスの出し方はとても参考になります。オフフェンスでは、日本代表の柿谷曜一朗選手のように上手なトラップができるようになりたいです。



○今後の抱負

松本山雅FCでは、ポジション争いが激しいので、自分が得意としているMFやDFのポジションを勝ち取って、レギュラーになりたいです。目標としている選手のようになるために、試合では自分の周りだけでなく遠くの状態も考え、一つ先のプレーができるようになりたいです。松本山雅FCユースでプレーができることに感謝するとともに、トップチームに上がって活躍し、将来は日本代表としても活躍したいです。

広報クイズ

■今月のプレゼント

豊田農産物加工施設より
「ふるさとのお味詰め合わせ」：2人

問題

高梨館跡公園に咲く「天下一の桜」と称される10本の桜といえば？
「●●●●●●●●●●ザクラ」

クイズの答え、住所、氏名、年齢、電話番号、世帯主名を記入の上、今月の広報で参考になった記事、今後知りたい情報などはがきに書いて、次の宛先までご応募ください。

締め切り 4月25日(金)必着
※当選はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。

先月号の答え 豊田農産物加工施設
利用組合で販売しているおやきの名称は？
答え・・・「あちやま」

383-8614

(住所記載不要)

中野市庶務課
秘書広報係 行

住所・氏名・年齢・
電話番号・世帯主

石井小百合さん
からのご紹介



○自己紹介

市内でフォトグラファーをしながら美容師としても働いています。フォトグラファーとしては、ウェディング写真や動画の撮影をしており、月に数回は東京まで撮影に行くこともあります。

従来の記録型撮影とは違い、一組一組に対し映画を制作するというコンセプトの「シネマウェディング」の編集も行っています。県内ではまだ、制作しているところが少ない手法であり、編集に時間も掛かるため大変ではありますが、見たお客さんに喜んでいただけたときは、とても嬉しい気持ちになります。美容師としても働いてはいますが、編集と撮影にほとんどの時間を割いているため、現在では友人など限られた方のみ、整髪などを行っています。



関 一也 さん (東吉田)

【フォトグラファー(写真家)・美容師】



▲雄大な景色などを自分が狙ったときに、とても嬉し気持ちになります。(写真は関一也さんから提供)

○中野市のイメージ

雄大な山々に囲まれており、落ちて暮らせるイメージがあります。世界的にも有名な地獄谷野猿公苑や志賀高原が近くにあり、写真も撮りに行きやすく、素晴らしい環境だと思えます。ただ、若者が都会に移ってしまいう傾向がある中で、若者が「もつと住みたい」と思える街になったら嬉しいですし、もつと住みたい街に変えていきたいです、私自身も貢献していきたいです。

○今後チャレンジしたいこと

妻と共にアーチェリー選手として活動していましたが、ここ数年は仕事に時間を取られてしまっている中で、時間を作ってアーチェリーの活動もしたいです。

池田市長の

わくわくレポート

vol. 9



なかのブランドシンポジウム

このたび商標「故郷のふるさと」を活用していただくため、去る3月22日に「なかのブランドシンポジウム」が市民会館で開催された。唱歌「故郷」の発祥の地として、中野市を広く地域内外に対して知っていただき、人が訪れ、交流を通じて経済活動が盛んになることをめざして、持てる観光資源を活かしていく、まさに、そのための標語ができた。

当日は、中野立志館高校の皆さんによるダンシングオープニングセレモニー、三四六さんの司会による、「ふるさとから世界への情報発信」と題したパネルディスカッションがプログラムされ、フィナーレでは中野童謡・唱歌を歌う会の皆さんと会場に集まった方々全員で「ゴンドラの歌」と「故郷」を合唱した。



今や、世界中で唱歌「故郷」は唄われ

ており、その作詞者である高野辰之博士の生家がここ中野市は豊田にある。映画サウンドオブミュージックで歌われたエーデルワイスがオーストリアの山並みを想起させるのと同じように、「故郷」はそれぞれの人が自分のふるさとへの憧憬を想い浮かべる世界的な歌となった。3・11という未曾有の災害のなかで、私たち一人ひとりに勇気と希望を与える歌として輝き、世界に広がったのではないかと思う。

そんな唱歌「故郷」の原風景がここ中野市にある。訪れる人たちはその原風景に自分の故郷の風景を重ね合わせることもできる。そうした世界がここ中野市にあると知れば、多くの人が本市にやってきてくれるものと思う。

厳しい寒さの冬が終わり、春を告げる「ひな市」そして、いたるところに桜の名所がある中野市。四季折々の季節の中で、この地を愛で多くの人に訪ねていただきたいと思うのは私一人ではないだろう。

